



斑点米カメムシ類の防除の徹底により 一等米の確保を!

毎年、斑点米カメムシ類による着色粒が下位等級の主原因、防除の徹底を

秋田地区営農センター 調査役 **渡辺 雄司**

1 秋田県における斑点米カメムシ類

秋田県内の主要な斑点米カメムシ類は、アカスジカスミカメですがアカヒゲホソミドリカスミカメが混在する場合があります。

2 アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの生態

- ①イネ科雑草(スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、イタリアンライグラス、メヒシバ、ヒエ類)を好みます。
- ②飛翔能力が高く、被害は水田全面に及びます。
- ③割れ籾を好んで加害します。アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメは口器が弱く、籾を刺すことはできませんが籾の隙間から吸汁します。
- ④稲の出穂期頃から水田に侵入して加害しますが、水田内にイネ科雑草等がある場合は、雑草の出穂と同時に侵入します。



アカスジカスミカメ

- ・体長4.6～6mm
- ・年3～4回発生
- ・7月下旬以降に発生した成虫が加害する
- ・水田内に雑草があれば幼虫も発生し、加害する



アカヒゲホソミドリカスミカメ

- ・体長5～6mm
- ・年4回発生
- ・8月下旬～9月に水田内で増殖した成虫や幼虫が加害する

3 防除対策

- ①除草の徹底により雑草地における斑点米カメムシ類の密度を低下させる。
 - 1.出穂期10日後頃に行う茎葉散布剤の散布直後から7日後までに農道や畦畔の草刈りをし、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
 - 2.水田内にイネ科雑草のノビエやカヤツリグサ科のホタルイ類が多発すると、アカスジカスミカメの水田への侵入を助長するため水田内の雑草対策を徹底します。
- ②薬剤散布により本田内の斑点米カメムシ類の密度を低下させる。

●1回目茎葉散布剤：出穂期10日後頃に散布する。

農薬名	散布量又は希釈倍数	散布液量	散布時期
スタークル粉剤DL	3kg/10a	—	出穂期10日後頃
スタークル液剤10	1,000倍	150L/10a	

●2回目茎葉散布剤(多発が予想される場合)：出穂期24日後頃に散布する。

農薬名	散布量又は希釈倍数	散布液量	散布時期
キラップ粉剤DL	3kg/10a	—	出穂期24日後頃
キラップフロアブル	2,000倍	150L/10a	

【参考】本田防除と水田周辺の草刈り時期

	6月		7月			8月			9月		
	上～下旬		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本田防除						1回目防除 出穂期10日後頃 ↓			2回目防除 出穂期24日後頃 ↓		
農道 畦畔	6月上旬		稲出穂15～10日前			草刈り7日以内			収穫2週間前		収穫
	← 草刈り →					↔			← 草刈り →		